

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市愛子児童館
2	指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団
3	指定期間	平成29年4月1日から令和4年3月31日まで
4	施設の利用状況	《利用者数》 31,647人 (前年度比 97.5%) 平成30年度 32,457人 平成29年度 26,470人 平成28年度 26,915人
		《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5	収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 58,273千円 (54,142千円) ()は前年度決算額 ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)
		《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円)
		・ その他収入 0千円 (0千円)
6	利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野		所見	評価
I	総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II	施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III	施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV	サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V	施設固有の基準	児童クラブにおいては、登録人数が増加する中、落ち着いて過ごすことができる環境を保障するため、児童館での生活の見通しを持つことができるよう、成長と安全を考えたデイリープログラムを子ども達と話し合いながら作成している。また、子ども自身が本を選んで読み聞かせを行う「読書タイム」や、子どもが進行する「帰りの会」などにより、子ども達の自主性や社会性を育てている。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
<p>地域の環境や子ども達の状況に応じた「安全・安心な地域の集いの場づくり」を重点目標に特色ある児童館運営に取り組みました。</p> <p>乳幼児事業は、季節感を取り入れた行事や年齢に合わせた工作、運動遊びなどを通して、親子の触れ合いを楽しみながら、参加者同士の交流も深まり、子育ての負担感や孤立感の軽減につながりました。また、赤ちゃんルームの設置により、職員も積極的に子育ての話題に加わり、楽しい雰囲気の中でそれぞれの子育ての思いを共有することができました。</p> <p>小学生対象事業は、豊かな自然環境を活かした「わくわくたんけん隊」による愛子の森探検、異年齢交流や地域の方々との交流が深まったマンカラ大会、オセロ大会、昔の遊び会など、活動を通して豊かな情操を育むことが出来ました。また、親子で取り組んだ凧作りや科学教室、座禅教室などは親子の絆が深まり、とても楽しかったとの評価もいただきました。</p> <p>児童クラブは、登録人数の増加に伴い、児童の成長と安全を考えたデイリープログラムを工夫することで、児童が児童館での過ごし方に見通しを持てるようになり、安全を意識しながらも自主的・意欲的に行動する姿が多く見られるようになってきました。</p> <p>「よさこいおどり隊」は地域の方を講師にお招きして練習に取り組み、宮城学習フェアや宮城地区まつり、町内会の行事など多くの行事に参加しました。地域の方に児童館を認知してもらおうとともに児童が達成感を味わう良い機会となりました。</p> <p>中高生事業は、ジュニアリーダーゲーム大会、夏休み中の「宿題やっちゃおう会」、児童館まつりでのボランティア参加、広瀬中吹奏楽部による「ミニコンサート」、スタディルームの設置など触れ合いが深まるような取り組みをしてきました。</p> <p>年2回の児童館運営懇談会には20名の委員の方から「児童館と地域連携」の視点からご助言をいただき、利用者アンケートでも肯定的な評価を得ました。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>小学生向けの行事では、マンカラやオセロなどの「ゲーム大会」が好評で、町内会や老人クラブの方々なども参加しており、子どもと交流できる機会として地域の方々にも喜ばれている。また、応援に来る保護者と高齢者との交流もあり、地域交流や世代間交流の広がりにつながっている。小学生のクラブ「よさこいおどり隊」は、地域の行事への参加を通して、児童館の認知度を高める大きな役割を果たすとともに、子ども達にとっても達成感や自己肯定感を育む取り組みになっている。</p> <p>地域との交流では、愛子の森を散策探検する「わくわく探検隊」や河童伝説のある「カップダ川祭り」への参加など、地域のボランティア団体や子育て支援クラブ、町内会などと連携した行事を展開している。転入者が多い地域の中で、児童館が、転入後間もない方々と以前から住んでいる方々との交流を取り持つ重要な役割を果たしている点が評価できる。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、従来2グループあった幼児クラブを1つに統合したことにより参加者同士の交流が深まり、年齢に合った運動遊びや季節感のある行事などを通して充実した取り組みに繋げることができた。新設した「赤ちゃんルーム」は、子育てについて相談したり雑談したりするなど、気軽に参加できる雰囲気づくりに努めた結果、父親も含めた多数の参加があり、地域の子育て支援拠点としての認知度を高めることができた。</p> <p>中高生対象事業では、中高生の参加を呼びかけるチランの制作や広瀬中学校の吹奏楽部による「ミニコンサート」を開催したほか、夏休みの宿題を手伝ってもらう「宿題やっちゃおう会」を企画するなど、斬新なアイデアにより中高生利用者の増加や世代間交流に努めており、創意工夫が認められる。</p>	S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課